

## 式 辞

少しずつ少しずつ春が近づいて来ました。今年度最後の日、三学期終業式となりました。夜明けも早くなり、私が六時前に自宅を出る時点でもかなり明るくなってきました。

今年度はみなさんにとってどうでしたか？区切りの日である今日、一年間を振り返ってみてください。私は、一学期の始業式において、「笑顔で、明るく、一人ひとりがそれぞれの目標に向かって継続的な努力を続ける1年間となることを期待します。」とお話ししました。2年生には、「授業・クラブ活動・行事すべての場面において、一番中核となる」ようにお願いしました。そして、「1年生を支えてあげて」ほしいともお願いしました。1年生は、学校には慣れたとは思いますが、下級生であるのは今日が最後です。20日には下級生が合格発表を見に来ます。みなさんのさらなる成長を期待します。

さて、今日は年度末に当たり、「人が成長する節目」について少しお話しをします。皆さんは、人はどんな時に、どんなことをきっかけに成長すると思いますか？困難にぶつかり、その困難を乗り越えたとき、その経験は糧となり、自信をつけさらなる成長を促します。つまり、困難なき所に成長はないということになります。「苦勞は買ってでもしろ。」という言葉がありますが、その通りです。気ままでお気楽な生活の中に成長は生まれません。もし、厳しい現実にもぶつかっている人がいるなら、自らの成長の糧となる機会だと受け止め、真正面からその困難にもぶつかってみましょう。

人生は自分の思い通りにはいきません。行くわけがありません。では、自分の希望が実現しない、なんでやねん！と思うことがたくさんあります。問題は、その際にどうそのことを整理し、対処するかです。一つの答えは、「なるようにしかならない。」運命に翻弄されていればよいという意味ではありません。57年間生きてきた私が、確信を持って言えることは、「懸命に努力していることは絶対に報いられる。しかし、自分の思いと違ったときに、報いられなかったと早合点してはいけません。自分が望んでいなかった道に行かざるを得なくなったとしても、後からふりかえればすべて自分のためだったんだと思える日が必ず来る」ということです。なぜなら、自分の行きたくない道には、人間は一生進まないからです。進みたくない道は行かなくても良い道なのではないでしょうか？それは、わかりません。でも、経験する必要のないこと、経験してはいけないことというのは、本当にあるのでしょうか？わたしは、これまでの人生でうれしかったこと、いやだったこと、辛かったこと、悲しかったこと、しなくなかったこと、そんなことすべてが自分の経験となり、自分の血肉となり、武器になっていると確信しています。一生懸命努力し、努力し、目の前に現れたことにぶつかっていくしかありません。そして、そのような人生の困難に立ち向かうための力を教育の場で、社会で培ってください。そして、人の意見に素直に耳を傾け、自分のエゴではなく、人のために生きていける人になってください。そして、直接自分の聞いたこと、見たことに自信をもち、間接的な噂に左右されることのない強い賢い人間になってください。

では、以上で本日のお話を終わります。来年度、始業式において3年生2年生となった皆さんに会うことを楽しみにしています。

平成30年3月15日

大阪府立懐風館高等学校長

羽 田 真